

大学生と猫

広くて緑が多く、車通りが少ない。多くの学生が過ごしやすい設計となっている大学キャンパスは、猫にとっても住みやすい環境である場合が多いと思います。このマガジンでも 度々大学に住み着いているノラ猫を学生がマネジメントする大学猫活動を紹介しました。

猫の殺処分問題や、その解決策としての TNR 活動や地域猫活動がメディアで取り上げられる機会が増え、認知度が高くなっていると感じます。それに伴い、大学猫サークル数は年々増加し、様々な活動実績が報告されるようになってきました。

今回は第6回大学ねこシンポジウムの参加レポートと、大学ねこ連盟の取り組みについて書きたいと思います。

第6回大学ねこシンポジウム

2019年12月7日、中部大学にて、第6回大学ねこシンポジウムが開催され、11大学90人程の参加がありました。私は大学ねこ連盟の事務局として参加しました。

全国の大学猫サークルが集まり、情報交換や自分た ちの活動を客観視する意味を含め、1年に一度、大学



ねこシンポジウムを開催しています。今回のテーマは「人的(組織・外部)マネジメント」でした。実際問題、猫より"人"のマネジメントに苦労しているようです。笑

今回の参加大学は、愛知教育大学 Kat Power、大阪府立大学ひと☆ねこ、京都大学 Cat-Ch、岐阜大学ぎぶねこ、慶応義塾大学ひよねこ、筑波大学 HSCaT、東北大学とんねこ、名古屋大学なごねこ、福島大学ふくねこ、立命館大学 RitsCat、早稲田大学わせねこ、計 11 大学でした。

今回のシンポジウムで発表を行ったサークルを簡単に紹介します。

ちゅぶねこ

トップバッターは今回の主催大学である中部大学「命を大切に!ちゅぶねこ共生 プロジェクト」の発表でした。

ちゅぶねこはサークルではなく、"目的を持って意欲的にチャレンジする学生に対して支援をする「課題解決型チャレンジ・サイト」"に 2018 年に採択され、アドバイザーの先生と予算、活動場所が大学か



ら与えられ、活動を開始したそうです。5年間所属可能なので、それまでにサークルとして 自立を目指しているそうです。現在はメンバー41名、猫15匹。

早稲田大学地域猫の会~わせねこ~

大学猫サークルの中でおそらく最も歴史のあるサークルです。設立が 1998年なので 21年の活動歴があります。現在は、メンバー96人、猫 3 匹。活動が長いサークルほど、猫の頭数が少ないです。 1 匹あたり 20万円まで医療を支出できることにしたそうです。



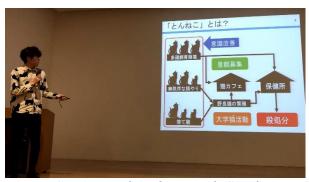
京大ねこサークル Cat-Ch

2013年設立。吉田キャンパスで活動しており、メンバー103人、猫37匹。メンバー数1位ですが、まだ大学公認サークルにはなれていないそうです。給餌は曜日班で別れ、運営面で部と班を作り、大人数でも交流や仕事が生まれるよう工夫しているそうです。



東北大学生の猫サークル~とんねこ~

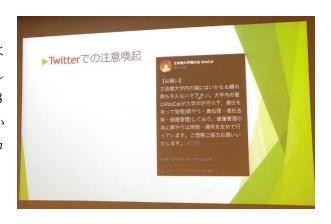
2014年設立。メンバー50人、猫の数? (メモ忘れ)。大学猫活動以外に、保護猫 カフェのお手伝いを活動の主軸に入れ、 多頭飼育崩壊問題など、猫問題について 学ぶ機会を積極的に取り入れているそう です。年初めにサークルに入る人のうち、 半数以上が半年で幽霊化してしまうこと



が課題だったので、今年は1年生にも積極的に役職を与えて責任感や所属意識を高めてみたそうです。その作戦が当たり、今年の1年生はサークルに定着しているそうです。

立命館大学猫の会~RitsCat~

2011年設立。メンバー84人、猫1匹。 サークルメンバーの組織マネジメントよりも、外部の餌やりさんの対応に苦戦しているようです。今年に入って、7歳と8歳の大学猫が腎不全で亡くなってしまいました。猫の体調にあった餌のコントロールをしてあげたいところです。



質疑応答タイム

発表後の質疑応答の時間はなかなかにぎわっていました。



大学猫シンポジウムの歴史

大学猫シンポジウムは、2013年に大阪府立大学が大学猫サークルを立ち上げた年に、他大学の取り組みをもっと知りたい、大学猫について知ってほしい、という目的で府立大学が呼びかけ人となり、第1回大学猫シンポジウムを開催されました。そこから、第2回は立命館大学で、第3回は九州大学、第4回は福島大学、第5回は京都大学、第6回は中部大学、と主催大学を変えて継続しています。

記録と継承

学生活動のメリット・デメリット

大学生が大学猫活動をするメリットでもあり、デメリットである点として、活動員の入れ替わりが早いという点があります。大学生なので、基本的に4年で卒業を迎えます。大学猫活動の理論と実践を学んだ学生が毎年全国に羽ばたいていくことはとても有意義ですが、せっかく理論が深まった頃に卒業になってしまい、安定してサークルメンバーが集まらないとノウハウや記録資料が途端に途切れてしまう、という困った側面もあります。

継続すること残すこと

第1回目の大学猫シンポジウムを企画主催してくれた大阪府立 OB の松山君が、シンポジウムの際に熱量の多いサークルに「来年シンポジウム開催しようよ」とささやくことで、第2回、第3回と、その後の大学猫シンポジウム開催を陰ながらサポートしてくれていました。ただ一人でささやき続けるのは負担が大きいですし、案内の連絡網や資料の継承に課題がありました。そこで「シンポジウムを継続するためにもシンポジウム事務局作らへん?」と言い出しました。そこで、賛同したメンバーがせっかくならシンポジウムに限定せず、大学ねこ連盟を作り、ゆるくも繋がりや資料を維持継承していこうという取り組みが始まりました。だいたいシンポジウムに参加する学生は、役職がある学年の時に1回だけ参加する人がほとんどです。でも、中には私も含め、2回も3回もシンポジウムに参加してしまう人が時々います(笑)。そういったあきらかにこの活動に愛着と関心を持っている数人が事務局スタッフとして集まり、なんとなく形になってきました。活動としては、年1回の大学猫シンポジウム開催サポート、連絡網の管理、各大学資料のストック、公開勉強会の実施、です。これらを通して現役学生サークルの活動サポートをメインとしています。

大学ねこ連盟主催の勉強会

私は組織運営は苦手なので、会議の日取りやアンケートの実施等はほかのスタッフに甘え、主に実践的な技術面のサポートとして、連盟加盟サークル向けの勉強会講師を担当しました。第1回目は、「大学構内で猫の遺棄・虐待があった時の対応について」でした。連盟に加入すると、過去の勉強会資料をいつでも見ることができます。第2回目は、「安全な猫の捕獲と運搬」についてでした。歴史の長いサークルで、入しぶりに TNR 対象の猫が現れた時や、活動始めたてのサークルは、捕獲器はあるものの、どうやって使ったらいいのかわからない、とう問題にしばし直面しています。勉強会は、会場参加または、Skypeを選ぶことができます。





ゆるく、長く、気軽なサポートを

大学猫活動自体、まだまだ歴史の浅い発展途上の取り組みです。なので、「大学猫とはこうである!」という押し付けをするのではなく、あえて定義は広く緩くしています。活動開始1年目は素晴らしく画期的な活動に見えても、2年目3年目で壁にぶち当たることもあります。スタートの数年苦戦していても3年目から見事に安定し始めることもあります。とっても安定している歴史の古いサークルが今まさに直面している危機もあります。大学ねこ活動は、継続してこそ意味があるので、短期的に評価することはできません。長い目で見て、活動を続けていくうえでどんな山や谷が訪れるのか、全国で奮闘するサークルの山あり谷ありのストーリーを長い目で見守って記録を残していくことに意味があると感じています。

色んな取り組みを共有しあい、困ったときには頼れるようなゆるいつながりを、長く続けていくことができればいいなと思っています。サークルメンバーの入れ替わりが激しく、資料や歴史が途切れてしまいやすいという学生サークルの負の側面をOBOGがメインで運営する大学ねこ連盟事務局がカバーし、新しく活動を始めたいサークルの応援もどんどんしていくことができたらいいなと思っています。

大学ねこ連盟 U-Cats の HP をメンバーが作ってくれました!

HP: https://daigakuneko.amebaownd.com/

学生団体に限り、捕獲送迎や TNR と地域猫活動についての勉強会など、各種相談、講師依頼を【ねこから目線。】では無料で受け付けることにします!お問い合わせは下記までどうぞ。

筆者



小池英梨子

仕事:ねこから目線。~猫専門のお手伝い屋さん~

活動:NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表

活動;大学ねこ連盟 U-Cats 事務局 お問合せ:e.kosame12@gmail.com